個別施策シート

資料2－3

【第３分科会(安全・都市基盤)】

	項目	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
全体テーマ	②「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る ①「みんなが暮らし続けることができる街」，「自慢できる街」，「アイデンティティを持つ」，「旭川はいい街だ」 ③自分達のものを変えたり，捨てたりして「おもてなし」するのではなく，自分たちの生活を豊かにして，悠々と暮らしを楽しんでいることに対し，「行ってみたい」，「住みたい」と思って集まる人達に「おすそわけ」する街を作っていく ①「道北圏の防災センターを目指せ」，①「ハード的，ソフト的にも災害に強いまち」，①「より安全安心な住みよい街を目指す」				
1	共通	将来にわたり，安心して住みやすい環境をつくる	町内会の崩壊，町内会加入率の低下	住民主体の地域づくりの重要性	お互いの町内会の交流を図る
2	共通	人材の育成，地元での教育の充実のほか，企業誘致や雇用確保にむけた取組	大学誘致には多額の費用を伴うことが想定される 企業誘致の際、地域に各分野の人材が整っている必要がある	地元学生だけでなく全国から学生を集めることが可能 既にある各大学等が協力し、大学運営を進める	市立大学の構想 (旭川ウェルビーイングコンソーシアムを活用、ホールディング化)
3	①防災	安全な街を目指す 「道北圏の防災センター」として ※災害全般に対して	「地震の少ないまち」は裏を返せば「地震に不慣れなまち」 地震に対してのリスクがどの程度あるかわからない 防災面のハード整備は進んでいる 災害は少ないけれど、明日災害が起こる可能性もある 災害時の最寄りの避難所，避難施設までの経路の長さの問題 地区によっては多大な被害が生じる可能性がある。 大規模な災害を想定した場合においては，実際は人手不足となる可能性 火山災害というリスクはある 消防団員のなり手不足 消防力の効率的な配置 建設業は旭川の基幹産業	市民をはじめとした全市的な防災体制の構築 **●防災のための近隣住民の協力が重要** 旭川の地位向上につながる 旭川は災害が少ないが、万が一発生したときのことを考えておかなければならない 防災施設運用の仕組みの強化が必要 建築物の劣化度に基づく耐震対策，整備計画が重要 有事の際には、地域の人々の協力・絆が大切 弱者が取り残されないための横のつながりが必要 リスクやメリットをはっきりさせ，安全性，魅力につなげる必要	**●平時から道北圏の防災センター機能を担う** 道北，他市町村への派遣部隊，被災者受入体制の確保 **●市民意識を向上させ，防災対策や避難訓練などを充実し，災害に強い体制を整備** 民間企業間の防災協定等横の連携 近場に避難場所を確保する必要がある 自主避難できない人をどの人が避難援助をするかを決めておく 各世帯の防災備蓄の普及 旭川市に限らず、周辺市町村や道北の防災も「自分事」として意識し、考えていくことが大切 十勝岳噴火総合訓練の実施 倒壊する可能性がある建築物を記載したハザードマップの作成 都市基盤を守る建設業の「公」的な側面を積極的に重視，支援 災害は明日発生するかもしれないことから、より安全安心な住みよい街を目指し、あらゆる面から今一度、検討 一時避難場所の確保とその後の円滑な避難場所への移動手法の構築 近場に避難場所を確保する必要がある。さらに、一時避難場所としてさまざまな場所を用意し、その後時間があるときに、大きな避難場所へと移動するような体制が大切 避難情報伝達方法の充実化，停電時や深夜帯でも機能する防災無線を整備

	項目	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
4	①防災	安全な街を目指す 「道北圏の防災センター」として ※主に水害に対して	豪雨時に万が一，地震が重なり，上流のダムが決壊すれば、旭川市全域に危険が及ぶ 平成22年に、旭川市洪水ハザードマップが作成されており、その中に一定以上(3日間で285mm以上)の雨量があった場合、地区によっては、5m以上の水害にあう可能性があることが示されている。 ハザードマップ運用の仕組みが薄い 豪雨時に万が一、地震が重なり、上流のダムが決壊すれば、旭川市全域に危険が及ぶ。 防災マップに記されている避難場所に実際に避難することは不可能	同上	一時避難場所の確保とその後の円滑な避難場所への移動手法の構築 近場に避難場所を確保する必要がある。さらに、一時避難場所としてさまざまな場所を用意し、その後時間があるときに、大きな避難場所へと移動するような体制が大切 災害は明日発生するかもしれないことから、より安全安心な住みよい街を目指し、あらゆる面から今一度、検討 避難時間を確保するための避難塔の建設、避難に係る機能の充実が必要 避難情報伝達方法の充実化，停電時や深夜帯でも機能する防災無線を整備
5	②消防・救急	より効率的で効果的な消防・救急体制，運営方法等の整備・維持	救急車の不適切な利用	適切な消防・救急体制の機能維持	**●救急要請の要否，応急処置等に係る相談窓口等の開設**
6	③交通安全・防犯	将来に渡り，子供，高齢者が安心して暮らせるまちとする	一人暮らしの高齢者に対する悪質商法被害の増加 携帯電話・インターネット等を利用する子供達に対する悪質商法被害の増加 一人暮らしの高齢者の孤独死が多い	**●消費者教育，環境改善** 高齢者の安心 安心して暮らせるように	高齢者や子供に対する悪徳商法対策の充実
7	③交通安全・防犯	安全を確保した上，自転車と歩行者の共存を目指す	自転車の増加 自転車の運転マナーの悪化	**●交通マナーの向上** 安心して暮らせるように	**●自転車走行帯の普及が必要** **(冬は道路の雪置場としての利用)** 歩行者の安全確保のための道路対策
8	③交通安全・防犯	犯罪等を未然に防ぐ環境整備を推進する	郊外の街灯が少なく暗い	非行の少ない明るい街に	犯罪の起こりやすい場所に街路灯，公園灯などの設置，点灯時間の延長等
9	④環境・リサイクル	魅力ある恵まれた自然環境の維持・保全	旭川は日本の都市の中でも飛び抜けて自然との前線部が近いのが特徴 自然環境と都市のバランスを維持 駅裏にはサケが遡上し，200年の森が残っている 30万人都市 中心部の緑被率が低い，緑の連続性がない	**●既にある美しい地域資源を見つめ直し，市民もその価値を自覚し，アピールする**	魅力ある恵まれた自然環境の維持・保全，市民意識の高揚等 中心部の緑地対策 **●動物園の地球環境・自然環境の保全といったテーマに配慮した環境整備** 動物園と裏山である旭山とのつながりの活用
10	④環境・リサイクル	環境保全のための省エネ化の推進	子供達への環境教育の現状，普及率等 ※情報の追加が必要	省エネに対する市民意識の向上，普及	省エネ・ノーレジ袋を長期的な展望で捉え，子供に教える
11	⑤エネルギー	未利用エネルギーの活用と自然環境の維持保全	森林面積，未利用エネルギー(バイオマス等)の状況，林業の状況等 ※情報の追加が必要 太陽光発電の低普及率 雪の有効利用	健全な森林資源の保全と未利用エネルギーの活用の両立	**●各家庭でのバイオマス燃料導入により，燃料費低減，林業雇用，森林整備が図れる** 街灯を太陽光エネルギーにて対応 太陽光などの自然エネルギー利活用 **●雪等未利用エネルギーの有効利用** 各家庭でのバイオマス燃料導入により，燃料費低減，林業雇用，森林整備が図れる 旭川石油会社を第3セクターで立ち上げる (灯油を安価で提供)

	項目	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
12	⑥都市基盤整備	将来の人口減少，少子高齢化を見据えた都市の規模，構成の再検討	居住部の拡大 旭川は広大な土地をもつ都市である。しかし、一世帯当たりの人数の減少や高齢世帯が増加している。生活のインフラも成り立たなくなる。 ほとんどの市街地は10km四方の範囲にあり，既にコンパクトシティ化されている	**●コンパクトシティ化** **●都市のダウンサイジング** 拡散から集約へ 周辺部の閉村(段階的整理の検討)	市街地を住みやすくし，まちなか居住を誘導する方法が成功のカギ 老朽施設を取り壊す「減築」の試行 守るべきものを選択し、それに資源を集中投入すべきという検討を行う 全てにお金を使うのではなく、市街中心地に集中することによって街の活性化を図る 高齢者を都市部に居住を変えてもらうなどの対策
13	⑥都市基盤整備	北北海道全体等，広域的な都市機能の充実と市内各地域間の連携の強化及び各地域の特性，多様性の向上を図る	都市機能が充実した地方部 近郊，オホーツク，稚内方面といった広域的な連携を視野にした市街地が構築	中心市街地のみが繁栄するのでなく、地域の個性を生かしていく必要 周辺地域こそ住みやすいまちづくりを目指す	**●周辺地の切り捨てではなく、商業施設や文化施設，行政施設等の再編・再配置を検討** 周辺地域同士の機能連携を図る
14	⑥都市基盤整備	若者，子育て世代，熟年層等あらゆる世代への「田舎暮らし」の促進	恵まれた自然環境 豊かな食資源等	ある程度の都市機能と自然がある暮らし(田舎)を守っていくことが大事 自然環境と都市のバランスを維持し、旭川の魅力を将来に引き継ぐ	広くて穏やかな地域性を自分達の強みとし，魅力として伝える方法の検討
15	⑥都市基盤整備	将来の人口減少，少子高齢化を見据えた市有建築物，インフラ等の維持保全等の在り方の検討	維持管理時代を迎えるインフラ・ストック 老朽化した建築物の対策が急務 都市基盤を網羅的に整備することは難しい 建設業は旭川の基幹産業 建設業の担い手不足	公共インフラは選択・集中した上，維持・更新 無駄な公共事業は許されない	インフラ，ストック保全に対する市民への情報提供，共通認識 上下水道，橋梁の経年化に関する補修整備計画 老朽施設を取り壊す「減築」の試行 **●都市基盤を守る建設業の「公」的な側面を積極的に重視，支援**
16	⑥都市基盤整備	バリアフリーな社会を目指す	バリアフリーに関する状況，市民意識，活動内容等 ※情報の追加が必要	障害があっても暮らしやすいまちづくり	ハード及びソフトの両面からのバリアフリー対策の推進 障害，バリアに対する市民教育，ふれあい等
17	⑥都市基盤整備	より安全なまちにむけた都市基盤の整備	ゲリラ豪雨による浸水被害	外水対策の強化，関係各所の連携を図る	ゲリラ豪雨対策
18	⑥都市基盤整備	将来の人口減少，少子高齢化を見据えた都市の規模，構成の再検討	安全な街 おいしさという魅力のほか，食の安全性ということもセールスポイント 旭川は日本の都市の中でも飛び抜けて自然との前線部が近いのが特徴 自然環境と都市のバランスを維持 駅裏にはサケが遡上し，200年の森が残っている 30万人都市 恵まれた自然環境 豊かな食資源等	都心部への人口流出を防ぐ「人口ダム」としての役割(人口流出に歯止め) 人ありてこそ都市といえる **●12年後に旭川の人口が30万人以上を保っていることを目標** 社会増減(転入転出等)への対策が重要 人の集まる都市に	**●人口流出を止め，流入を増やす手立てを積極的に検討すべき** **●リタイヤ世代だけでなく，現役世代も呼び込める策についてあらゆる検討** 観光，定住促進を図ることも重要 札幌のバックヤード機能を持ち，お互い不可欠な関係を構築 社会増減への対策が重要。外へ出て行く人を止める、できれば入ってくる人を増やす手立てを積極的に検討すべきである。リタイヤ世代だけでなく、現役世代も呼び込める策は無いかあらゆる検討

	項目	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
19	⑦交通	市民にとっての日常の足，観光客にとっての効率的な移動手段としての公共交通体系の再検討	駅を中心とした放射状の公共交通体系 マイカーが移動手段の主流 柔軟なバス路線対策ができていない バス交通がわかりにくい	周辺地域を結ぶ交通網の整備 市民が街中に住むことが市街地の再生に大きくつながる	**●自動車交通と機能的に補完し合うような交通環境の整備(駐車場＋シャトルバス)** 柔軟なバス路線対策 ドイツにならった公共交通機関 駐車場料金補助，無料化 冬期にバスを増やす 観光客，外国人にもわかりやすいバスマップ，表示 動物園から離れた場所に大型駐車場を設置し、シャトルバスで結ぶ
20	⑦交通	国内外を視野に入れた，広域的な交通資源の活用，発展	北海道のほぼ中央に位置する交通の要衝 都心と旭川空港で結ばれており，アクセス性の強み 道北の交通拠点となるまち 橋の多い街であるにも関わらず，交通渋滞が無いという現実も今までの取組の成果	空港機能の強化 JR，バス，自動車等他の交通機関との効率的な連携	**●空港へのJR乗り入れによって、空港の利用しやすさを向上** 旭川・札幌間の移動時間の短縮
21	⑧住環境	市民一人一人が自らのまちに愛着を持ち，生涯を豊かに暮らせるまちに育て上げる	中心市街地の空洞化 休業商店等の増加 往来人数の減 大きな無料駐車場を有したイオンなどの商業施設が実績を上げている	**●中心市街地の居住部分の拡充** **●中心部への住み替え促進** 買物公園の魅力を演出 イベントによる賑わいの創出と外部発信 車で来やすい街づくりという方向 商業施設の充実 **●庶民が気軽に駐車場を利用でき，ゆっくりと買い物が楽しめるような環境を作る** デパート・商店街を連絡する空中回廊の設置	効果的に中心市街地の再生・活性化を図る 高齢者に対しての居住性の向上を図り，まちなか居住促進を図る 高齢者向け居住施設や賃貸住宅の整備、移転誘導措置の導入 高松丸亀町の中心市街地対策に学ぶ 「ロマンチック街道恋人通り」 緑道～買物公園の素晴らしさを宣伝 **●旭川の魅力をもっと市民や市が自覚してアピールしていく** **●買物公園に横型エレベーター等，新たな公共交通機関の設置** 旭川を知り尽くし隊などの啓蒙活動 小路の再生 **●市庁舎は、広場等を兼ね備えたランドマークとして人が集まれるような場に**
22	⑧住環境	空き家の安全性の確保，犯罪発生の防止及び有効活用等	**●管理不全な空き家の増加**	空き家の情報管理，所有者に対しての適正管理の推進，啓蒙等	空き家対策(除却，有効利用，危険防止)
23	⑧住環境	新しく豊かなライフスタイルの提供 若者，子育て世代，熟年層等あらゆる世代への「田舎暮らし」の促進	北海道の中で旭川市民は「この街に生涯暮らしたい」と考える割合が非常に高く、そういう自分も旭川に住み続けたいと考えている	人口流出に歯止めをかけるためには、人の集まる都市にしていかなければならない。旭川の魅力は、ある程度の都市機能がある都会だが、身近に自然がある暮らしやすい街（田舎）なのでそれを守っていくことが大事ではないか。	「新屯田システム」を構築 郊外型農村住宅を生かした移住促進 身近な自然資源を生かしたサイクリングロードの更なる活用 「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る
24	⑨雪対策	冬期の生活の安全の確保と効率的な除雪体制の構築 都市基盤としての産業の育成	道路に堆積した雪による通行障害，危険 雪による公共交通機関の遅延 除排雪費用の問題 非除雪区域の出現 雪堆積場の不足 道内他都市と比べ，旭川は除雪は悪くは無い 豪雪時には道路及び公共交通機関の復旧までｈの対応が比較的早い	**●除排雪は，各地域の民間業者に長期に渡り事業を任せる(行政は側面支援)** 個人企業が自分の地域の除排雪を自社の資金で担当する等の対策を練る 除雪に要する財政負担の軽減が期待 冬の迅速な除雪	**●行政による除雪と地域による除雪の体制整備** **●地域に根付いた除雪体制を構築** 見通しの悪いところの除雪重点化 雪を寒さを味方にする **●雪の有効利用，利活用**

※表中の赤字下線箇所は，委員の意見趣旨から追加記述したものを示す。

※表中の●印箇所は，ワークショップでランクが高いキーワードを示す。

個別施策調整シート

【第3分科会からの意見】→【第１分科会(福祉・子育て)】

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
全体テーマ	・「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る ・「みんなが暮らし続けることができる街」，「自慢できる街」，「アイデンティティを持つ」，「旭川はいい街だ」 ・自分達のものを変えたり，捨てたりして「おもてなし」するのではなく，自分たちの生活を豊かにして，悠々と暮らしを楽しんでいることに対し，「行ってみたい」，「住みたい」と思って集まる人達に「おすそわけ」する街を作っていく ・「道北圏の防災センターを目指せ」，「ハード的，ソフト的にも災害に強いまち」，「より安全安心な住みよい街を目指す」			
1	[全分科会共通] 将来にわたり，安心して住みやすい環境をつくる	町内会の崩壊，町内会加入率の低下	住民主体の地域づくりの重要性	お互いの町内会の交流を図る
2	[全分科会共通] 人材の育成，地元での教育の充実のほか，企業誘致や雇用確保にむけた取組	大学誘致には多額の費用を伴うことが想定される 企業誘致の際、地域に各分野の人材が整っている必要がある	地元学生だけでなく全国から学生を集めることが可能 既にある各大学等が協力し、大学運営を進める	市立大学の構想 (旭川ウェルビーイングコンソーシアムを活用、ホールディング化)
3	生活保護者の生活環境の改善をはかり，労働人口増加につなげる	生活保護不正受給問題	適正な受給体制の構築 受給者の生活環境の改善 受給基準や定義には問題がないか審議する必要	福祉業界等への就職先の斡旋を行い，労働の対価として扶助(自立支援) 生活環境改善等のフォローも必要
4	将来の若年層を中心とした人口減少を見据えた対策を図る	2040年には20～39歳の女性が半減するとの推計 子育てしやすくなるような支援が必要 人口減少を食い止める施策を率先し実施することが必要	雇用における若年女性優遇措置 女性の就職の幅を広げる 結婚応援政策 子育て支援政策	新入社員祝い金、市職員の女性枠の拡大、市内企業への女性新規採用のプラス１要請等， 出会いの場所を提供するようなイベントを開催 悩みや願望、問題の傾向をアンケートで把握し、ディスカッションの場を用意 子育て祝い金や高齢者との交流も兼ねた子育てセミナーを開催
5				
6				
7				

※表中の赤字部は，委員の意見趣旨から追加記述

個別施策調整シート

【第3分科会からの意見】→【第２分科会(教育・文化)】

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
全体テーマ	・「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る ・「みんなが暮らし続けることができる街」，「自慢できる街」，「アイデンティティを持つ」，「旭川はいい街だ」 ・自分達のものを変えたり，捨てたりして「おもてなし」するのではなく，自分たちの生活を豊かにして，悠々と暮らしを楽しんでいることに対し，「行ってみたい」，「住みたい」と思って集まる人達に「おすそわけ」する街を作っていく ・「道北圏の防災センターを目指せ」，「ハード的，ソフト的にも災害に強いまち」，「より安全安心な住みよい街を目指す」			
1	［全分科会共通］ 将来にわたり，安心して住みやすい環境をつくる	町内会の崩壊，町内会加入率の低下	住民主体の地域づくりの重要性	お互いの町内会の交流を図る
2	［全分科会共通］ 人材の育成，地元での教育の充実のほか，企業誘致や雇用確保にむけた取組	大学誘致には多額の費用を伴うことが想定される 企業誘致の際、地域に各分野の人材が整っている必要がある	地元学生だけでなく全国から学生を集めることが可能 既にある各大学等が協力し、大学運営を進める	市立大学の構想 (旭川ウェルビーイングコンソーシアムを活用、ホールディング化)
3				
4				
5				
6				
7				

※表中の赤字部は，委員の意見趣旨から追加記述

個別施策調整シート

【第3分科会からの意見】→【第４分科会(経済・交流)】

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
全体テーマ	・「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る ・「みんなが暮らし続けることができる街」，「自慢できる街」，「アイデンティティを持つ」，「旭川はいい街だ」 ・自分達のものを変えたり，捨てたりして「おもてなし」するのではなく，自分たちの生活を豊かにして，悠々と暮らしを楽しんでいることに対し，「行ってみたい」，「住みたい」と思って集まる人達に「おすそわけ」する街を作っていく ・「道北圏の防災センターを目指せ」，「ハード的，ソフト的にも災害に強いまち」，「より安全安心な住みよい街を目指す」			
1	[全分科会共通] 将来にわたり，安心して住みやすい環境をつくる	町内会の崩壊，町内会加入率の低下	住民主体の地域づくりの重要性	お互いの町内会の交流を図る
2	[全分科会共通] 人材の育成，地元での教育の充実のほか，企業誘致や雇用確保にむけた取組	大学誘致には多額の費用を伴うことが想定される 企業誘致の際、地域に各分野の人材が整っている必要がある	地元学生だけでなく全国から学生を集めることが可能 既にある各大学等が協力し、大学運営を進める	市立大学の構想 (旭川ウェルビーイングコンソーシアムを活用、ホールディング化)
3	安心安全なまちとしての魅力を向上し，旭川のブランド化を推進する	全道でも医療密度の高い地区	既に市が打ち出している観光医療としての方向性を更に発展	安心な医療環境の充実
4	まちの強みを生かした企業誘致	旭川は雪が多いものの、災害は少ない アクセス性の強み(都心と旭川空港で結ばれている) 豊かな食資源	旭川の経済的発展、都市基盤の強化 旭川を大企業の研修地として，セールスし，実際に旭川の安全性を知ってもらう リスクが少ないということは，街の特性・自慢として宣伝出来る	研修地としての位置付けを入口に，大企業を誘致する 安心して暮らせる都市機能の充実を強みに，移住・企業誘致を積極的に行う
5	観光のバリエーション，アイテムを増やし，滞在型観光の振興を図る	旭川の観光は滞在型ではない 観光客は周辺町村の温泉宿やホテルに宿泊 旭川は道北の中心地であり、食の文化は豊か (海のものも山のものも質が良く、低価格で手に入る)	滞在型観光の振興	滞在型観光を進めるためには、夜の観光資源の開発が必要であり、函館の夜景を参考に、サンタプレゼントパークや嵐山からの夜景を観光名所にしてはどうか
6	市民のまちの魅力の認識と周辺町村を含めた広域的な観光の発展	外貨を稼ぐことを考えなければならない 北海道の中央に位置しているという旭川の特色 まちの魅力アップ	他都市と相互発展 市民相互のつながりを深め，わが街に誇りを持つ 他の都市との交流を深める	動物園付近に宿泊施設，体験学習施設の整備 旭山動物園の再生の過程を展示・全国へネット配信 イベント等を通して外部に発信 デパート・商店街を連絡する空中回廊の設置 ゆっくりと買い物が楽しめるよう駐車場の利用性向上 買物公園の魅力を演出
7	まちの経済的発展に向けた新たな農業の在り方とブランド化の推進	農業従事者人口の減少，高齢化	農業の振興 経済的発展，旭川のブランド化	農業を6次産業化することで、農業を発展

※表中の赤字部は，委員の意見趣旨から追加記述